

鹿児島県奄美市

【計画期間 平成29年4月～34年3月】

・昭和28年の日本復帰以降、復興・振興計画により急速に都市化が進展し、生産・流通等による発展ともあいまって、中心市街地は奄美群島における社会活動及び教育・文化活動の中心的な役割を担っている。
 ・平成18年に1市1町1村が合併 人口43,184人(平成27年国勢調査)、面積305.92km²

【中心市街地を巡る状況】

- 奄美大島は奄美群島の中心的な島であり、中でも中心市街地は行政機関や公共公益施設、生活関連の主な施設が集積している。
- 居住人口や営業店舗数、商品販売額が減少するなど、中心市街地における都市機能及び商業機能の向上が求められている。

【中心市街地に関する指標の推移】

- 居住人口
H21:4,952人→H28:4,309人(▲643人、▲13.0%)
- 1日あたりの歩行者通行量
H20:18,699人→H27:8,734人(▲9,965人、▲53.3%)
- 年間商品販売額
H19:82.2億円 → H26:39.6億円(▲42.6億円、▲51.8%)

目標	目標指標	基準値	目標値(H33)
来る人を増やす「いもーれ」	主要9通りにおける営業店舗数	247店舗(H28)	280店舗
観光客を呼び込む「Comeもーれ」	中心市街地内の年間宿泊者数	140,800人(H27)	221,800人
人がふれあう「ゆていもーれ」	公共施設の年間利用者数	225,626人(H27)	379,800人

【目指す中心市街地像】 ♪いもーれ・Comeもーれ・ゆていもーれ♪コンパクトシティ「ゆらうまち」の実現

来る人を増やす「いもーれ」
※奄美の方言で「いらっしゃい」

- 【主要事業】
- ・末広・港土地区画整理事業
 - ・中心市街地出店支援事業
 - ・各種集客イベントの開催
 - ・共通駐車券発行事業
 - ・コミュニティバスの運行 など

観光客を呼び込む「Comeもーれ」
※奄美の方言で「ここにおいで」

- 【主要事業】
- ・中心市街地まち歩き事業
 - ・宿泊施設整備事業
 - ・大型客船受け入れ事業
 - ・観光お土産品の開発
 - ・各種集客イベントの開催(再掲) など

人がふれあう「ゆていもーれ」
※奄美の方言で「寄ってらっしゃい」

- 【主要事業】
- ・子育て・保健・福祉複合施設整備事業
 - ・市民交流センター整備事業
 - ・AiAiひろば管理運営事業
 - ・市本庁舎整備事業
 - ・各種集客イベントの開催(再掲) など

奄美市中心市街地活性化基本計画の事業概要

来る人を増やす「いもーれ」

① 中心市街地出店支援事業

中心市街地における商業集積密度を高めるため、空き店舗への新規出店者に対し家賃補助を行うとともに、新規創業者の育成を図るためのセミナーを開催する。

② 末広・港土地区画整理事業

市街地へのアクセスの向上や防災機能の強化を図るとともに、商業店舗の集約・更新により魅力的な中心市街地を形成するため、末広・港地区における土地区画整理事業を行う。

③ 各種集客イベントの開催

屋仁川通り(通称やんご通り)において開催する黒糖焼酎を広くPRするイベント「やんご祭り」や20店舗超の飲食店が参加するバル「さたぜえナイトふえすていバル」、商店街の主要4通りを歩行者天国にして開催する「商店街夏まつり・秋祭り」など、エリア内において多数のイベントを開催する。

人がふれあう「ゆていもーれ」

④ 市民交流センター整備事業

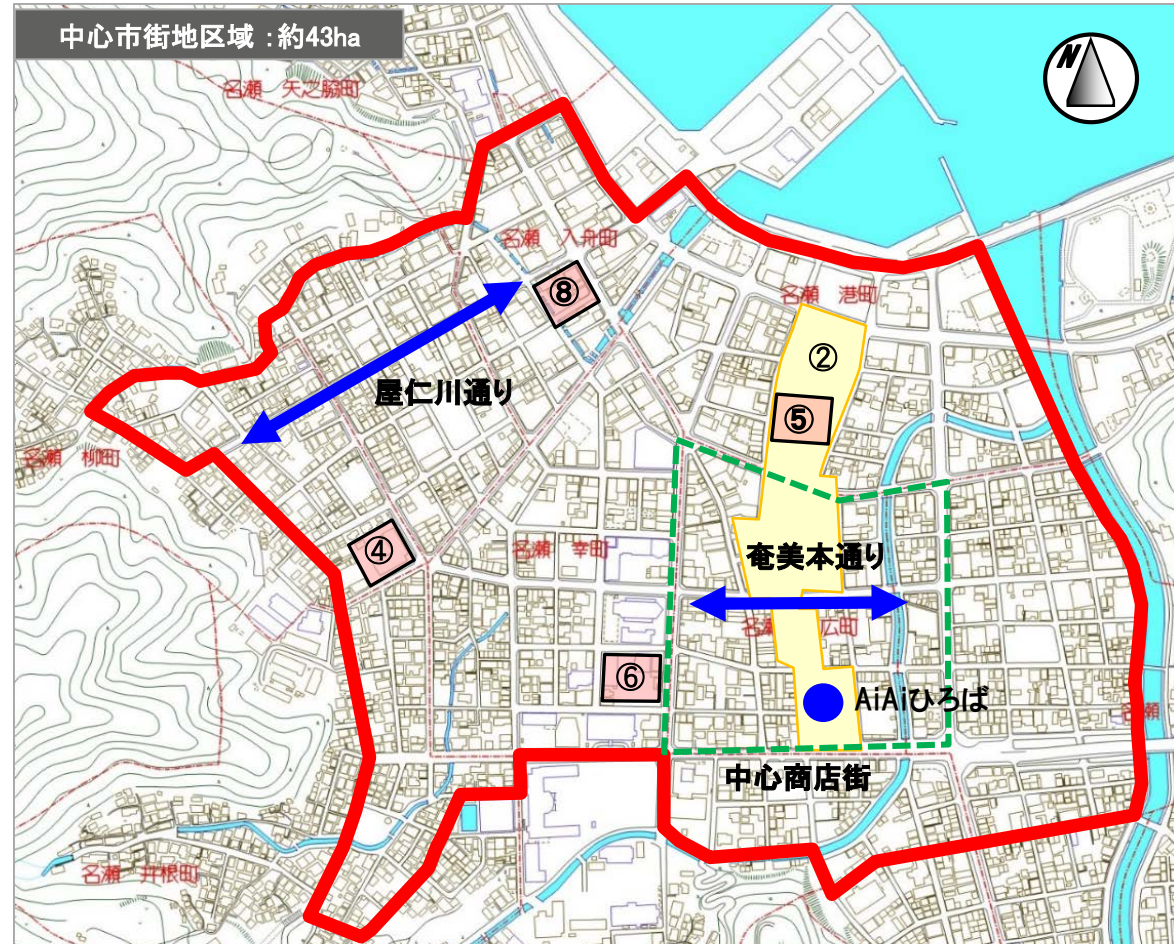
新たな市本庁舎に移転する現水道庁舎跡地に、360席程度のホールや図書室、調理室等を備えた市民交流センターの整備を行う。

⑤ 子育て・保健・福祉複合施設整備事業

中心市街地内にある港町児童センターと、中心市街地外にある老朽化し建て替えが必要な公共施設である保健センター、老人福祉会館の機能を集約するとともに、新たに子育て支援機能等を加え、世代間が交流できる新たな複合施設を整備する。

⑥ 市本庁舎整備事業

老朽化が著しく耐震基準を満たしていない市本庁舎を建て替えることで、安全性を高めるとともに、4つの建物に分散している行政機能を一つに集約する。



観光客を呼び込む「Comeもーれ」

⑦ 中心市街地まち歩き事業

歴史・文化等を散策・体験できるまち歩きマップの作成や、港町として発展した名瀬まちの歴史を巡るとともに、大島紬体験・黒糖焼酎醸造所といった体験メニューの設定等により、観光客を中心市街地へ誘客する。

⑧ 宿泊施設整備事業

増加傾向にある観光客数は、今後増加する見込みであり、中心市街地の宿泊者数を増加させるため、新たな宿泊施設を民間事業者が整備する。